

CONTENTS

[特集]

人と自然の調和・共生の中で

[ View of This issue ]	
“人と自然の調和・共生の中で”	01
独自性豊かな研究を	
● 理事・副学長   奥村克純	
[ 特集 / 対談 ]	
人と自然の調和・共生の中で	02-07
● 中部電力社長   三田敏雄	
● 学長   豊田長康	
司会   理事・副学長   奥村克純	
[ RESEARCH FRONT 1 ]	
言葉の真の意味を理解して	
中国古典研究に挑み続ける。	08-09
● 人文学部教授   片倉 望	
[ RESEARCH FRONT 2 ]	
自閉症の子どものころによりそい、	
新たな支援の可能性を切り拓く。	10-11
● 教育学部准教授   赤木和重	
[ RESEARCH FRONT 3 ]	
新たな合成法や化合物を開発し、	
ファインケミカルズの次代を築く。	12-13
● 大学院工学研究科教授   清水 真	
[ RESEARCH FRONT 4 ]	
美しい海を守りながら、	
真珠養殖産業の活性化を図る。	14-15
● 大学院生物資源学研究科教授   古丸 明	
[ CLOSE-UP Interview ]	
地方に住む人々への想いを胸に、	
挑戦の道を歩み続ける。	16-17
● 医学系研究科教授   内田淳正	
[ 連載   CHRONICLE OF MIE VOL.3 文学編 ]	
転向の季節の新進作家、丹羽文雄。	18-19
● 人文学部教授   尾西康充	
[ 連載   CHRONICLE OF MIE VOL.3 美術編 ]	
曾我蕭白「雪山童子図(せっせんどうじず)」	20-21
● 教育学部教授   山口 泰弘	
[ 三重大大学の目指す社会連携③ ]	
創造開発研究センター・社会連携創造部門 四日市フロント	
地域への大学の出先機関として、	
産学官連携を進めています。	22
[ TOPICS ]	23-24
日本設備管理学会論文賞	
IEICE FELLOW	
ベルツ賞	
日本農芸化学会BBB論文賞	
日本土壌肥科学会奨励賞	
糖尿病治療研究会 “We are up for self-care” Award 最優秀賞	
日本医学教育学会大会奨励賞	
日本生物工学会生物工学論文賞	
日本植物細胞分子生物学会技術賞	
日本学術振興会マイクロビームアナリシシ奨励賞	
日本味と匂学会研究奨励賞	
近代解放運動史研究	
史料纂集古文書編「朽木家文書」第二	
2008年6月~12月	
三重大大学の主な出来事	24



“人と自然の調和・共生の中で”  
独自性豊かな研究を

理事・副学長(研究担当)  
奥村克純

三重大大学のミッションに刻まれる今回の特集のテーマ“人と自然の調和・共生の中で”は、科学技術創造立国を目指すわが国が、あらゆる科学の分野において常に念頭に置くべき命題でもあろう。この言葉から直ちに地球温暖化など環境問題に関する研究の重要性が思い浮かぶが、必ずしも利潤に直結しない総合的な研究が必要であり、自由な発想で基礎研究に取り組める大学の研究者が果たす役割は極めて大きい。

大学教員には、本来、いろいろなことにとらわれずに、のびのび楽しんで基礎研究をしてもらいたい。夢とロマンを追いかけ、真理を探究する、常日頃から考えを思い巡らせ、自由な発想のもとに生まれるアイデアをあたため育む、このような研究環境から新しい発見や発明の芽が生まれ、ひいてはイノベーションにつながる研究へと発展すると考えている。しかしながら、法人化以降、大学の大きな使命として研究成果の社会への還元がこれまで以上にクローズアップされるようになった。研究で説明責任を背負うのは当然であるが、実用化が見える研究、特に地域社会にイノベーションを起こす研究が求められる。大学教員にはさらに、教育、研究、社会貢献、管理運営などの面から義務や評価が明確化され、さまざまなプレッシャーがかかり、多くの教員にとって、理想に近い研究環境とは言いがたい状況かもしれない。

三重大大学は、今年度採択された戦略展開プログラム、次年度設置する独立大学院地域イノベーション学研究科により、研究指導能力をもちながらも産学官連携をまとめあげるプロを増員し、大学の研究成果を社会に還元する体制をさらに充実させつつある。産学官連携ばかりと思われるが、逆に、研究者にのびのびと基礎研究に打ち込める環境を提供するための体制固めでもある。産学官連携のプロが目や光らせ、基礎研究の成果からシーズを引き出し事業に発展させる。このような体制が、三重大大学と地域社会や産業界との連携をさらに促進させ、学内的には少しでも教員の負担を軽減し、真に研究に打ち込める環境の充実につながることを期待している。

本特集の自然環境と人間生活の調和・共生を念頭に置いた独自性豊かな研究の成果が、このような体制から生み出されるものと確信する。

おくむらかつみ  
農学博士  
専門分野は、分子細胞生物学・  
応用生命科学・ゲノム生物学

